

[ヒガンバナ（リコリス属）の性質と特徴]

2012年8月 片山繁朗

殆どが寒さに強い丈夫な球根植物で日本全国に分布しています。しかも寺院や墓地にも多く自生が見られ球根に猛毒のリコリンと云うアルカロイドが含まれている為か、シビレバナ、テグサレバナ、テンガイバナ、シビトバナ等不吉な地方名が 900 位有るそうです。

○リコリス属を大きく分けると秋に開花後すぐに出葉して来るグループと翌春に葉を出して来る仲間に分けられます。いずれも翌春5月に葉が枯れ休眠には入ります。秋出葉型は春出葉型に比べてやや寒さに弱く、豪雪地帯や北海道での露地栽培はむりです。しかし冬期も葉はグリーンで美しく淋しい冬の庭の良いアクセントになります。(ラジアータ、アルビフローラ、オーレア、ホーデイシェリー、ジャクソニアナ等)

一方春出葉型は翌春出葉して来る為、耐寒性が強くスクアミゲラは北海道でも露地植えが可能です。(スプレングリ、インカルナータ、ストラミネア等)

○花の色巾が大変広い。

花卉に黒以外の総ての色素を持っているので、花の色が大変豊富です。赤、桃、紫青、橙、黄、淡緑、白、の他に複色の花も咲きます。中でもスプレングリの弁先のブルーは純粋なスカイブルーに近い色をしています。

○開花期が長い(彼岸時だけではない)

早い種類で7月から咲き始め10月迄開花しますので、種類を選べば色様々な色や形の花を長い間楽しむ事が出来ます。

主な原種の開花時期

7月 スクアミゲラ(夏水仙)、サンギネア(キツネノカミソリ)、ストラミネア

8月 インカルナータ、プミラ(シナヒガンバナ)、スプレングリ

9月 ラジアータ(ヒガンバナ)、アルビフローラ(シロバナヒガンバナ)、

10月 オーレア

更に最近の交配種を加えると7月～10月迄殆どの花色を揃える事が出来ます。